

表5 SPF豚群の検査及び処置

病原体	供試抗原 ¹⁾	検査時期及び検査頭数		検査方法 ²⁾	処置
		時期	頭数		
豚アデノウイルス	三重	3か月毎	群5頭又は10%のいずれ が多い頭数	SN	抗体陽性群・同居群 ³⁾ 全殺
日本脳炎ウイルス	中山	"	"	HI	"
豚ゲタウイルス	神奈川 Haruna	"	"	HI ELISA	"
豚サーコウイルス		"	"	IFA	"
オーエスキーアウイルス	Shope Sullivan	"	"	ELISA テッキス凝集	"
牛ウイルス性下痢粘膜病ウイルス	Nose	"	"	SN	"
豚コレラウイルス	ALD-A76	"	"	ELISA	"
脳心筋炎ウイルス		"	"	SN	"
豚赤血球凝集性脳脊髄炎ウイルス	HEV-67	"	"	SN	"
豚伝染性胃腸炎ウイルス	T0-K	"	"	SN	"
豚サイトメガロウイルス		"	"	IFA	"
豚流行性下痢ウイルス		"	"	SN	"
豚エンテロウイルス(豚テシオウイルスを除く)		"	"	SN (A:PEV-9UKG/410/7 3、B:PEV-8V13)	"
豚インフルエンザウイルス		"	"	HI (H1N1, H1N2, H3N2)	"
豚パルボウイルス	90HS-SK	"	"	HI	"
豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス	Lelystad	"	"	ELISA	"
豚口タウイルス	S-80	"	"	SN	"
マイコプラズマ	ハイオニューモニ工	"	"	ELISA	"
豚赤痢菌		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
ローソニア イントラセルラーリス		"	"	臨床症状	"
マイコバクテリウム アピウム-インツラセルラーレ	マイコバクテリウム アピウム	"	"	ツベルクリン反応	抗体陽性群・同居群 全殺
アクチノバシラス・ブルロニューム	2型SHP-1	"	"	AGG	"
ポルデテラ ブロンキセプチカ	H-16	"	"	AGG	"
ブルセラ	メリテンシス	"	"	CF	"
豚丹毒菌	多摩96	"	"	テッキス凝集	"
バストレラ ムルトシダ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
レブトスピラ		"	"	臨床症状	"
サルモネラ		"	"	菌分離	"
トキソプラズマ		"	"	色素試験	"
豚テシオウイルス ⁴⁾					
アフリカ豚コレラウイルス ⁴⁾					

口蹄疫ウイルス ⁴⁾				
豚水胞疹ウイルス ⁴⁾				
狂犬病ウイルス ⁴⁾				
豚痘ウイルス ⁴⁾				
豚水胞病ウイルス ⁴⁾				
水胞性口炎ウイルス ⁴⁾				
牛痘ウイルス ⁴⁾				
ニパウイルス ⁴⁾				

注 豚の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した豚については病理組織学的検査等を行う。

- 1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。
- 2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。
H I : 赤血球凝集抑制反応 E L I S A : 免疫酵素抗体法 S N : 血清中和試験 I F A : 間接蛍光抗体法
A G G : 凝集反応 ゲル沈 : 寒天ゲル内沈降反応 C F : 補体結合反応
- 3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。
- 4) 国内で発生がない(又は重要度が低い)ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。